

令和4年度 八郎潟町教育委員会の点検評価

5. 9. 6

八郎潟町教育委員会では、開かれた教育行政の実現に向けて、次のとおり、令和4年度教育委員会評価をまとめ、令和5年9月町議会議定例会へ提出します。

教育委員会評価の実施について

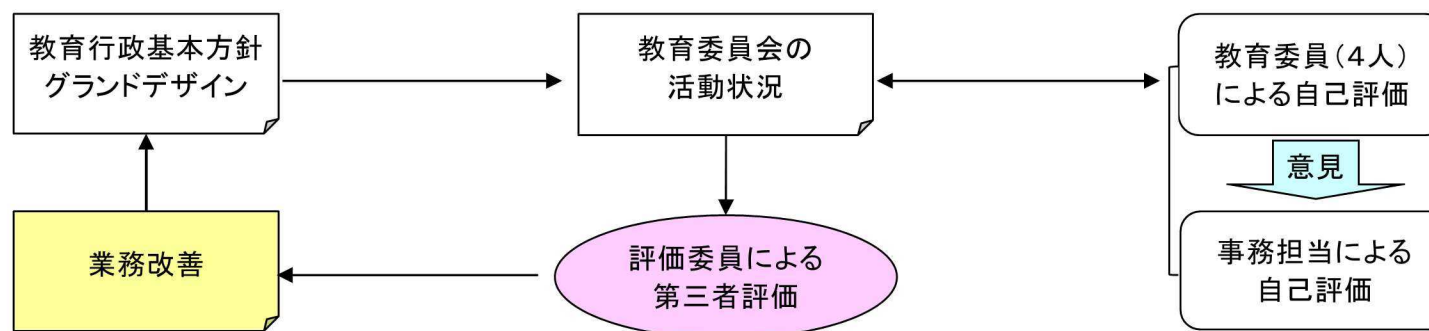
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成20年4月施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

八郎潟町における評価の実施



評価計画

3月	（自己評価の集計、まとめ）【教育委員及び事務担当の自己評価は2月中に実施】 ※達成度の評価基準 A；よく達成できた B；達成できた C；達成できなかった
4月	第1回委員会（概要説明，評価方法の説明）
6月	第2回委員会（教育委員会活動及びグランドデザイン重点施策についての評価）
7月	第3回委員会（評価結果の確認）
9月	評価結果を9月議会へ提出
10月	評価結果の公表（ホームページで）

◆教育委員会

事業名	事業内容	教育委員自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
総合教育会議	教育行政に係る重点的に講ずべき施策等に関する協議を行う	A	行政トップとの情報を共有でき、定例会での課題などの提言が実現するなど、協議の成果がでている。	行政と教育が共通理解を図り、連携して現在の重点施策を行っている点は、評価に値する。
教育委員会の年間活動計画	定例会を開催する （事務局との連携及び運営上の工夫等を含む）	A	協議資料の事前配付があり、準備して定例会に臨むことができていた。今年度は中学生の傍聴もあり、町広報誌と併せて町民に幅広く周知されている。	開かれた定例会に向けて工夫して取り組んでいる。町全体で子供たちを育む雰囲気醸成することを願う。
	教育行政の運営に関する一般方針を定める	A	評価によって改善がなされて次年度の方針が定められており、各分野の指針となっている。	委員会点検評価が、次年度以降の業務に反映されている。
	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出る	B	十分な時間をとって不明点の説明が行われ、意見が交わされている。	教育予算や教育施策は、十分な理解を得られるには難しい面もあるが、説明に工夫を加えるなどして、努力してほしい。
	教育委員会規則の制定又は改廃を行う	B	現状に即した制定・改廃が行われている。	国や県の教育方針や法規の改正に注視して、教育現場の実情に即して進めてほしい。
	各種委員会委員の任命及び委嘱を行う	A	豊かな経験と専門的な知識を兼ね備えた方々が、任命・委嘱されている。	各委員会の機能的な運用に生かされるように、適切な任命や委嘱を引き続き行ってほしい。
	教育委員研修を行う	C	コロナ禍で、予定された研修機会が中止になるなど残念だった。	次年度の実施に期待したい。
	学校訪問等を行う （計画訪問、指導主事訪問、授業参観、部活動・スポーツ少年団訪問、施設訪問など）	B	数少ない訪問ではあったが、園児・児童生徒の元気な姿に逞しさを感じることができた。	学校現場や行事などを直接見ていただき、学校の声や保護者の声を聴く活動を続けてほしい。

◆学校教育

1 確かな学力を育む
4 実践力を育てる

2 豊かな人間性を培う

3 健康の維持と体力の向上を図る

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
八郎潟町学校評価システムの実践	学校教育の重点事項（知・徳・体に関する共通課題）について評価を行う	A	評価システムに町の学校教育の重点を盛り込み、子供の実態に応じた目標を学校・園で設定して自己評価している。特に小学校と中学校においては、学校運営協議会委員から学校関係者評価をいただき、次年度の学校運営につなげている。	自己評価と学校関係者評価を行うことで、小・中学校の現状と課題が見えてくる。評価結果は次年度の学校経営に生かされている。
園・小・中の連携	こども園と小学校の交流会の実施と小学校と中学校の連携教育を推進する	A	こども園と小学校では、連携に関する会議や園児と児童の交流活動を実践した。小学校と中学校においては、乗り入れ授業や合同あいさつ運動等を実施し、併設校における接続の在り方に関する研究を継続している。	非常に良い事業である。先生方には事務的にも難儀をかけることになるが、引き続き研究をしながら進めてほしい。
学校支援サポーターの配置（小7名）	支援を要する子供の学習支援及び生活面をサポートする	A	支援を要する児童生徒への対応並びに教育の充実のため、会計年度任用職員を小学校に7名配置し、教育支援委員会からの要望に沿うように進めている。	様々な行動をとる児童生徒が年々増加傾向にある。教師の負担を分散できるようなサポート体制を今後も重点に置いて進めてほしい。
英語科及び英語活動サポーター事業	小学校新学習指導要領に示された5・6年生英語科と3・4年生英語活動をサポートする	A	英語活動サポーター2名を配置し、担任教師とTT指導を実践しており、学習指導方法を工夫・改善することで、成果を上げている。	多様な実践が行われている。成果や課題を検討しながら、今後も継続してほしい。
英語指導助手	英語力向上のため、外国人を採用して英語学習を進める 地域の人材を活用し、子供たちと密着した学習活動を展開する	A	13年目となった英語指導助手は、非常に熱心に指導方法や教材を研究しており、職務に取り組む姿勢が大変優れている。 地域に溶け込んだ活動は、児童生徒に限らず保護者とのコミュニケーションもよくとられている。	現在の英語指導助手は、熱意と人柄に優れており、児童生徒にとって好ましい学習環境となっている。今後も更なるご尽力を願う。
メール配信事業	緊急時情報などを保護者の携帯電話やパソコンに速やかに連絡できるようにする	A	平成24年度から導入している本事業については、ほぼ全ての世帯が登録しており、緊急に学校から発信される情報などは、速やかに保護者に伝わっている。	現在の社会事情にあっている。今後も更に利便性を希求し、改善できる箇所があれば、直しながら継続してほしい。

学校給食費助成事業	町内に住所を有する児童生徒の保護者を対象に、教育の充実及び子育て支援を目的として、給食費を助成する	A	平成24年度から町内在住の児童生徒の保護者に対して助成を行っている。 学校給食費の全額を助成することで、保護者の経済的負担を軽減している。	子供は町の宝である。持続的な町の存続を担う子供たちに対して行う事業なので、今後も継続を願う。
スクールバス助成事業	遠距離通学のためにスクールバスを提供するとともに、教育の充実及び子育て支援を目的として通学バス利用に係る経費を助成する	B	平成27年度からバス定期の全額助成により、保護者の経済的負担を軽減している。 現在は、マイタウンバスと町所有バスの両方を通学バスに利用し、小池地区内25区の児童についても通学バスの利用を開始している。 小学生のバス利用を優先するために、中学生への助成を休止しているが、利用児童数が一定程度減少した場合には、中学生のバス通学を再開し、必要な支援を検討したい。	小さいとはいえ、インフラが網羅されていない我が町にとって、どのような通学の補助ができるかは永遠の課題と思われる。マイタウンバスなど地域行政の動きに合わせ、最善の方法を今後も探してほしい。
4歳児健康相談	子供の成長過程を確認し、就学に向けて適切な対応を図ることを目的として、保健課及び福祉課と協力して健康相談を実施する	A	就学に向けて町内の4歳全園児とその保護者が交流できるよい機会となっている。 事業の趣旨に対する理解が浸透してきており、保護者には子育てに関する不安を軽減するための場として参加いただくことができた。	保護者には、子育てを考える一つの機会となる。多様なご家庭がある中大変重要な事業だと思う。
安全・安心フォーラム	安全・安心な町づくりを目指した取り組みを推進するとともに、通学路の安全に関する課題を検証する	A	PTA連絡協議会主催による安全・安心フォーラムは、「家庭での安全安心なインターネット」と題して講演会を実施した。授業参観日に開催したことで多くの方々が参加してくれた。 また、毎年PTA連絡協議会が通学路等の町内危険箇所等の改善要望書を町に提出し、夏季休業中に町当局・警察・PTA連絡協議会の3者で改善について検証している。	子供を取り巻く社会情勢により様々な注意喚起が必要となるので、その時々で必要なものを行えばよいと思われる。
小中学生のフッ化物洗口事業	子供たちの歯を虫歯から守り、健全な歯の育成のため、学校歯科医師の協力のもとに実施する	B	薬品を使用することから、事業の実施にあたっては保護者から同意書を提出していただき、週1回法によりフッ化物洗口を実施している。 本事業に対して同意できない家庭も一定数あるため、啓蒙と普及に引き続き務めていきたい。	子供の歯の健康に有益であると思われるが、保護者の考え方もあるので「可能な限り」取り組むのがよいと思われる。
八郎潟町立学校長寿命化改良事業	学校の個別施設計画に基づき、長寿命化改良工事を行う	A	特段の問題もなく、工期に遅れがないうえ、学校の教育活動への影響を抑えながら工事を進めることができた。	計画的な改修工事がなされ、学校が安全安心な教育環境になっていることは、評価できる。
学校体育館ウレタン塗布	学校体育館床面に運動施設用のウレタン塗布を行う	B	町内体育施設の使用予定等を考慮し、部活動やスポーツ活動にも影響がないようにしながら施工することができた。	適切に進められている。

◆社会教育

- 1 学習機会の充実 2 家庭教育の支援 3 芸術文化の振興 4 文化財の保護と継承
5 町立図書館の充実

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
放課後子ども教室	放課後や長期休業中に小学校の教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、児童に勉強やスポーツ活動の場を提供する	A	教員免許を有している指導員2名を配置し、放課後に学習会の実施（50名）と夏季休業中に、漢字・算数検定学習会を農村環境改善センターで実施（漢字21名、算数15名）した。 秋田音頭伝承サークル（36名）は後継者育成の一環も担っている。指導者が高齢になっており、指導者確保が課題となっている。 社会体育事業と連携して、ヨット教室を開催している。	地域の教育資源等を活用した多様な取り組みが見られ、その成果に期待したい。
やすらぎ交流会	高齢者が生きがいをもち、仲間づくりと楽しい老後生活を送れるように、講演会、移動学習、交流会を開催する	A	5月から2月まで毎月1回、年10回学習会を開催することができた。町外への移動学習は、コロナ禍に鑑み中止とした。 今年度は会員数が4名増えて31名となり、2年連続の増員は会の活性化に繋がっている。	状況に応じた判断は適切である。これからも魅力ある内容を工夫し、継続してほしい。
観劇の集い	優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う	B	あきた芸術村「わらび座」の観劇を11月14日（月）に2年ぶりに開催できた。 コロナ禍の影響からか、5名の参加に留まった。	コロナ禍の影響で参加者は少なかったが、これからも事業は継続してほしい。
成人式	大人になったことを自覚する機会を提供し、その前途を祝福する	A	今年度もコロナ禍の収束の兆しが見えず、県内の約半数の市町村が中止・延期とした中、可能な限りの感染症防止対策を講じ、8月15日（月）に対象者65名中40名の出席をもって開催することができた。 出席者は、ワクチン接種やPCR検査実施済みで出席するなど、成人としての自覚と責任が感じられた。 昨年度は時間短縮のため記念講演等を企画しなかったが、今年度は願人踊公演を実施できた。	コロナ対策をしっかりと行い、成人する人たちの様々なアイデアを取り入れ、よりよい式になるように実行委員への支援を継続してほしい。
第38回 子ども盆踊り大会	県指定無形民俗文化財「一日市盆踊り」への参加を促進し、後継者の育成を図る	B	一日市盆踊りが3年ぶりに開催されたことに伴い実施した。3団体36名の参加となった。 かねてより参加団体及び参加者数の減少が懸念されていたことから、今年度は子ども会だけでなく、スポ少や有志などにも参加要件の枠を広げたが、参加団体は少なかった。	驚くほど子供が減っているが、やらないよりはましなので、様々な作戦を期待したい。
秋田県青少年劇場	小・中学生向けの優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養を図る 演劇・音楽公演からいずれかを選択して開催する	A	県・町・法人の共催事業で、昨年度と同じように全校児童生徒に鑑賞の機会を提供するため、学校体育館で小公演「しゃみせんいろいろ」を開催した。 今後も学校と協議の上、より多くの児童生徒に鑑賞の機会を提供できるように努めていきたい。	プロの演奏を聴き、日本の伝統文化に触れる良い機会となった。今後も継続して実施できることを期待したい。

趣味講座	個人の要望，社会の要請に応じた各種趣味講座を開催する	B	町内外の多様な知識や技術を持っている方々に講師としてお願いし，町民のニーズに応えた講座を開催できるように心掛けている。ヨガ教室（9月～1月まで月2回10回開催12名参加），ディスプレイ小畳作り教室（12月18日9名参加），親子いけばな教室（1月7日8組16名参加）を実施した。 コロナ禍のため，すべての事業が募集定数に満たなかった。今後は感染症防止対策を講じながら啓蒙啓発に努め，老若男女が参加できる講座の開催を推進していく。	実施の様子や参加者の感想など，情報発信を工夫することで，口コミで広がることも期待できるのではないかな。
歴史文化財探訪	町内外の歴史や文化に触れる機会を提供し，郷土を愛する態度や心を豊かにする	B	11月3日（木）に公民館・図書館連携事業「まちぶらり講演会」を開催した。 昨年に引き続き，県生涯学習センターシニアコーディネーター北条常久氏を講師に招き，「創刊100周年『種蒔く人』と畠山松治郎」と題して，本町出身の畠山松治郎について深く切り込んだ内容での講演だった。	地元の我々が知らなくて，町外のその道の詳しい人の方が知っていることが，結構あると思う。このような事業は続けてほしい。
芸術文化祭	芸術文化に触れる機会を提供し，町民の創造性の高揚と文化的風土づくりを進め，文化の振興を図る	B	3年ぶりにカラオケ発表会と舞台発表会を開催できた。コロナ禍前と比較して参加者及び参加団体共に減少したが，来場者数は例年並みであった。舞台部門は久しぶりの事業でスケジュール等に不安があったが，芸術文化協会員と生涯学習奨励員の協力のもと，スムーズな開催ができた。 なお，お茶会については飲食を伴うことから，茶道の会との協議の上で中止とした。	出演者が不安と緊張感をもって臨んだ発表会。発表会を待ち望んでいた来場者と各委員の協力の下，盛会裏に終わることができたことはよかった。
新春書初め会	健全な心身と生涯にわたり書を愛好する豊かな心情を養う	C	長年に渡り，書初め会の指導者としてご尽力いただいていた畠山勤氏が勇退されたほか，町民の参加者が見込めないため，事業を廃止した。	やむを得ない判断である。
合同厄払還暦祝	人生の節目に当たる厄払・還暦を祝う	B	3年ぶりに県内・県外在住者を問わず，対象者に制限を設けることなく開催できた。総勢86名の参列者があり，節目の年に旧友が一堂に会し神事を執り行った。 コロナ禍前と比較すると参列者は減少したが，事業を途絶えることなく再び開催できたことは，次世代に引き継いで行ける明るい兆しとなった。	成人式同様，節目節目での再会を楽しみにしていることから，引き続き実施してほしい。
学校支援事業	小中学生に対して，学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整備する	B	学校支援ボランティアとして，小学校は正課クラブや総合的な学習の時間，中学校は総合的な学習の時間等に，地域住民がふるさと先生として，専門的な内容の指導に当たっている。学校支援ボランティアの方々も高齢になりつつあり，徐々に勇退されている方もいるが，地域学校協働活動推進員によるコーディネート活動が展開されており，学校と地域のパイプ役として尽力されている。	地域の人材活用により，子供の教育活動の成果は上がっていると思う。今後もコーディネーターと連携し，充実した学習が実践されていくことを期待したい。

図書貸出事業	新刊図書の購入、県立図書館との相互貸借事業と図書整理を行い、町民の読書意欲を促す	A	新刊購入や郷土資料収集、寄贈資料受け入れなどから図書館資料の充実を図り、町民をはじめ周辺市町村利用者へ迅速に読書機会を提供している。企画展示などの図書館資料を活用した事業は年々定着してきており、利用者の読書意欲を高めている。学校支援として団体貸出事業や児童による選書体験、図書館職員による訪問も行っており、今年度は学校図書館支援等で文部科学省から表彰を受けた。 当館にない資料については、今までどおり県内図書館との相互貸借事業を活用して対応している。今後は、図書購入リクエスト制度の存在もアピールしながら、地域に寄り添った蔵書構成を目指していきたい。	様々な事業の展開は定着してきており、「町の図書館ライブ」や「町HP」等でも情報発信に工夫が見られる。今後の新たな試みと積極的な取り組みに期待したい。
後継者育成事業	県指定無形民俗文化財「願人踊」「一日市盆踊り」と地域の伝統芸能「秋田音頭」の後継者育成を支援する	B	願人踊、一日市盆踊り、秋田音頭の保存団体である一日市郷土芸術研究会への運営費として補助金を交付している。保存団体は町の児童生徒に民俗芸能を指導し、伝承している。 児童生徒数が年々減少していく中で、伝統芸能を後世に継承していくことは厳しい現状であるが、保存団体が活動しやすい環境の整備に努めていく。	児童生徒数が減少していく中で、伝統芸能活動の後継者育成に意欲的に取り組んでいることは、高く評価できる。今後も行政からの支援や働きかけが必要と思われる。
文化財保存事業	町指定文化財「小池板碑群」等の管理と保存 NPO法人「浦城の歴史を伝える会」への業務委託	B	町指定文化財である小池板碑群の保護施設の管理は地域住民に依頼している。昨年度、板碑にカビが発生した事案については、保護施設の窓を改修したことにより風通しが良くなり、板碑に付着するカビを抑制することができた。 浦城址登山口駐車場に設置している簡易トイレの管理は浦城の歴史を伝える会に依頼している。 地域史料館の維持管理は、地域史料館運営委員会と指定管理者制度に基づき委託契約している。 登山口駐車場の簡易トイレの更新と地域史料館内の展示ケースの設置は必要に迫られており、予算確保が課題である。 令和5年度の県ほ場整備事業に係る埋蔵文化財試掘調査（イカリ・鳥屋崎）を実施したが、新たな遺跡は発見されなかった。	有形の文化財は保存・保管にそれなりの予算がかかるので、委員会としても苦しいところではあると推察される。可能な限り有益な方法を選択しながら、文化財・史跡系に関する国や県の補助金などを見逃さないようにアンテナを張って、将来に備えてほしい。
館ノ下遺跡発掘調査	農地集積加速化基盤整備事業（高岡地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査	A	昨年度実施した農地集積加速化基盤整備事業（高岡地区）に伴う試掘調査により、八郎潟町浦大町字脇平地内が館ノ下遺跡の拡張範囲と確認されたため、令和4年度に発掘調査を行った。発掘作業は5月から9月まで行い、発掘面積は3,132㎡であった。 発掘により、遺物は数万点出土し、5基の遺構を検出した。 10月からは整理作業を行っており、令和5年度も継続して整理作業を行う。報告書は令和5年度末に刊行する。	遺跡の試掘・発掘など多彩な活動に取り組んでこられ、報告書が今年度中に刊行されることは、素晴らしいことである。

◆社会体育

- 1 町民総参加の各種大会・教室の開催
- 2 スポーツ団体の育成と指導者の養成
- 3 オリンピック記念会館を中心とした体育施設の開放
- 4 総合型地域スポーツクラブへの支援と普及

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
町民体育館夜間開放	毎週土曜日に夜間開放し、町民に運動に親しむ場所を提供する	A	日常生活の中にスポーツ及びレクリエーションスポーツを普及させることを目標に、体育施設を開放する。 夜間開放を行うことにより、運動する場を提供するなどして身体を動かす機会を増やすことに努めていく。	町民のニーズに應えるよい事業である。今後も引き続き実施してほしいし、新たなニーズに対しても可能な限り対処してほしい。
スポーツ少年団結団式	スポーツ少年団員と指導者が集い決意を新たに励み合う機会とする	B	4月に新団員を含んだ総勢98名の結団式を開催した。1年間仲間と共に励まし協力し合うことを誓い、決意を新たにスタートしている。	年度のスタートに当たり、新たな目標を設定できる機会としたい。
チャレンジデー	全国一斉に、毎年5月の最終水曜日実施される住民参加型のイベントで、15分以上継続して運動した住民の参加率を競う内容となっている	B	今年度も他の自治体と対戦を行わないオープン参加型で実施した。今年度は報告方法が変更され、町内会等へのPR活動が功を奏し、参加率が65.3%となり、昨年度の1.1%から大幅に増加した。 今後も町内会やスポーツ団体と連絡を密にし、住民参加イベントとして実施していきたい。	参加することに意義のある事業であり、町内会や地域からの声掛けで参加体制ができたことはよかった。
B&Gの運用 (6月15日～ 9月15日)	B&G海洋センタープールを開館し、全町民に開放して水に親しむ機会を提供する	B	利用者は昨年の4,406名に対し、3,517名と減少した。 小・中学校授業の受け入れについては、スムーズに行っている。 現在、老朽化した部分の修繕について、B&G財団の助成金を申請中である。地域の方々に利用しやすい環境を整えていくように努めていきたい。	身近に利用できる施設があることが大切であり、引き続き財団の援助を活用しながら運営してほしい。
水泳教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	A	水泳教室を4日間(8回)実施したところ、延べ194名の小学生が参加できた。指導者の方々の丁寧な指導により、泳ぐことのできなかった児童も泳げるようになるなど、楽しく水泳教室を終えることができた。	授業時間内ではできない丁寧な指導を受ける機会になっているので、是非継続して実施してほしい。
ヨット・カヌー教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	B	ヨット教室を2日間実施したところ、参加者は4名だった。土曜日と日曜日に開催すると、スポ少活動等で参加できない児童が多いようである。 参加した児童は実際に湖面に出てヨットを操縦するなど、有意義な時間を過ごすことができた。ヨットやカヌーの楽しさを伝えながら参加者増に努める。	八郎湖の水質が改善されれば、八郎潟町民にとっては身近なスポーツとなり得るヨット・カヌーである。運営は厳しいかもしれないが、今後も継続してほしい。

全町スポーツ大会	グラウンドゴルフ大会	B	昨年度はコロナ禍にあり中止したが、今年度は団体の部が10町内15チームの参加と個人の部で15名の参加があった。今後も参加町内会が増えていくように呼び掛けていく。	町内会の交流等でも取り組める競技であり、継続してほしい。
	ビーチバレーボール大会	B	昨年度は一般の部6町内会の参加に対し、今年度は5町内会の参加となった。コロナ禍にあり、参加者の混雑を避けるため、女子の部は行わなかった。 大会の開催に当たり、スポーツ推進委員の協力があり、スムーズな大会運営ができた。	混雑を避けた対応は、やむを得ないと思われる。
	家庭バレーボール大会	B	昨年度はコロナ禍にあり中止したが、今年度は5町内会の参加があった。 大会の開催に当たり、バレーボール協会とスポーツ推進委員の協力があり、スムーズな大会運営ができた。	一定の参加者があり、バレーボール協会と協力して継続してほしい。
	ラージボール卓球大会	B	昨年度6町内会（6チーム）の参加に対し、今年度は8町内会（8チーム）の参加があった。 大会の開催に当たり、卓球協会とスポーツ推進委員の協力があり、スムーズな大会運営ができた。	一定の参加者があり、卓球協会と協力して継続してほしい。
	ディスコン大会	A	昨年度はコロナ禍にあり中止したが、今年度は12町内会（18チーム）と過去にないチーム数での大会となった。 大会の開催に当たり、スポーツ推進委員の協力があり、スムーズな大会運営ができた。	参加者が増えたことは、地域にこの事業が定着していると考えられる。
ふるさとあきたラン （全州市町村対抗駅伝大会）	県が全市町村に呼びかけて行われる大会である （今年度は仙北市において開催）	B	総合成績が20位、町の部では6位という結果に終わったが、小学生から一般までの選手は練習の成果を発揮し、完走することができた。	全県各地をめぐる大会なので、出場者にはよい励みになっていると思われる。応援していきたい。
スポーツフェスティバル	全町民が各種スポーツやレクリエーションスポーツに触れる機会を提供する	B	体育協会主催のフェスティバルは、全町民を対象としたレクリエーションや縄跳び大会等を実施した。悪天候やコロナ禍などの影響により4年ぶりの開催となった。幼児から一般まで多くの町民が参加し、成功裏に終えることができた。	4年ぶりの開催で、多くの町民が参加できたことは、喜ばしいことである。誰もが気軽に運動を楽しむことができる事業となっている。
表彰式 スポーツ講演会	一年間のスポーツ大会の成績に対し、功労賞、特別賞、栄光賞、奨励賞を与え表彰する	B	体育協会主催の表彰式・スポーツ講演会を2月11日に実施できた。今年度優秀な実績を残した方々を表彰し、今後の励みとなるように努める。 また、講師に秋田ノーザンハピネッツ所属でラート選手として活躍している高橋靖彦氏をお迎えし、講演と実技を行った。	町から表彰される機会はそんなにないので、スポーツ関係者の励みになるよう、今後も継続してほしい。

かけ足運動表彰式	町民の体力向上を図る	B	昨年度は表彰者18名、参加者154名に対し、今年度は表彰者17名、参加者145名とほぼ同程度であった。 今後も事業の周知に取り組み、参加者が増えていくように呼び掛けていきたい。	引き続き実施してほしい。
総合型地域スポーツクラブの推進	4年度事業計画に基づいて活動する	B	体育協会と共催して、スポーツフェスティバルなどの事業を進めている。 単位協会の既存活動へ引き込むことやサークル活動・スポーツ教室などを事業として、幅広く周知を図っていきたい。	誰もが身近な地域で、気軽にスポーツを楽しめるような企画をお願いしたい。